

気愛

パリ日本人学校 中学部3年A組

学級通信 第21号

2025年10月3日発行

parinichi.takahashi6@gmail.com

パリ日祭まであと1週間

パリ日祭当日まで約1週間となりました。劇では各場面ごとに細かい演技の練習をして、舞台に必要な大道具・小道具作りも完成に近づいてきました。

合唱は、今週から3パート合わせて練習を始めました。お互いの音を聞き合い、歌詞の意味を考えながら歌えるように、完成度を高めていけるといいですね！



劇中に登場する小道具たち。
どこに出てくるかお楽しみに！

授業も頑張ってます！



国語：聞き上手になろう
「私を作ったもの」をテーマに
対談を行いました。



体育：持久走

グラウンドでペース走を行っています。1周あたりどのくらいのペースで走ったらよいか考えながら取り組むことで、自分のペースをつかんでいきます。



新カフェテリア～みんなで中間テストお疲れ様！編～



10月6日(月)～10月10日(金)の時間割

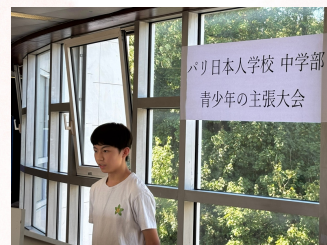
中3	パリ日タイム	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	バス時刻
6日(月)	クラスの時間	理科	技術	音楽	社会	全校音楽	数学	パリ日祭	16:40
7日(火)	委員会	リハーサル				英語	国語	体育	16:40
8日(水)	朝の運動	体育	英語	美術	総合	数学	パリ日祭		15:40
9日(木)	クラスの時間	英語	理科	英会話	社会	国語	数学	パリ日祭	16:40
10日(金)	朝の運動	社会	国語	合同音楽	理科	パリ日祭準備			15:40

9/19(金)青少年の主張大会

最優秀賞

「言語から見る、グローバル化」

吉宮 悠太郎



今、世界では英語を学ぶことが当たり前になってきています。どの国の、どの学校でも英語を学んでいると思いますし、大人になってから学び始める人も大勢いると聞きます。この背景には、交通手段や通信技術が発達し様々な国の人が関わりあうようになった中で、皆の架け橋となるような言語が必要になったことが挙げられます。最近、僕は言語に興味を持ち、色々と調べていたのですが、地球上では英語教育が重要視される一方で、疎かにされ、消滅しつつある言語もたくさんあることを知りました。

世界には約7000もの言語が存在すると言われていますが、そのうちの約40%は消滅の危機に瀕しているそうです。

例えば、北海道や沖縄で話されていたアイヌ語や与那国語は、明治時代、政府から同化政策を受けたことで、現在は国連のレッドリストに載っているほど消滅が目前まで迫ってきています。

そのほかにもこのような消滅の危機に瀕している言語はたくさんあり、中には事実上すでに消滅したものや、話者が10人に満たないものも多くあるのです。だから、グローバル化が進み、英語などの共通語での生活が加速され、このような少数言語が消えていくことに僕は違和感を感じました。

しかし、なぜそのようなことが起こるのでしょうか。調べていくうちに、経済力の集中や植民地支配、グローバル化などによる言語の弾圧などによって、人々が必然的に多数派の言語に適応しなければならなくなることが多くあるのだとわかってきました。例えば、今年僕たちが宿泊学習で行ったプロヴァンス地方では、元々プロヴァンス語が話されていましたが、フランスの経済力が高まったことで、今ではフランス語が話されています。つまり、大きな勢力によって土地や文化が均一化されていくことで、言語まで均一化されていくことがあるのです。

こうやって自然淘汰されていく世界を、グローバル化と呼ぶのなら、それは本当に推し進めて良いものなのでしょうか。言語はそれぞれの歴史の中で生まれたものであり、それぞれの民族の人間性や思考、文化の象徴だと考えます。実際、繊細な語彙が多くある日本語では、短歌や俳句など、短い言葉で多くの背景を想像させるような日本独自の文化があり、言葉がそれを物語っています。僕は世界をただ単に平らにするだけではなく、このような言語、あるいはそれと結びつく文化を守っていくべきなのではないかと思っています。

では、これらの言語を守るために、僕たちは何ができるのでしょうか。

まずは、世界の様々な言語や文化に興味を持つことが大切だと思います。例えば、僕は最近、「ドウドゥク」という楽器に興味があるのですが、この楽器はアルメニアという国で生まれた民族楽器で、とても厳かで、柔らかい音色を持っています。実際、アルメニアで話されているアルメニア語は、発音などの影響から、柔らかく、リズムのある響きを持っていて、言語と文化が密接に結びついているといえます。

言語について学んでみることで、普段学校で学んでいるような地理歴史はもちろん、美術や音楽などの背景にある、様々な国や民族の文化についても知ることができます。そこには、英語を学ぶだけでは知ることのできないような、新たな価値感が広がっているはずです。

そして、何よりも大切なのは、母国語を大切にし、理解を深めていくということです。先ほどの短歌や俳句の例にあるように、僕たちの母語、日本語にはたくさんの美しい表現があります。日本の古典では、「をかし」「おもしろし」「あわれ」など、趣を表す、似たような語彙が多くありますが、そのどれもが少しずつ違った意味を持っていました。現代の日本語でも、このような語彙は「大和言葉」として受け継がれ、日本人の人間性や思考に大きな影響を与えています。自分たちの言葉にしかない表現を大切にすることで、アイデンティティが生まれ、それが自国の言葉を守ろうとする意識につながるのではないのでしょうか。そして、そう考える人が増えれば、言語はこの先、失われずに長くにわたって受け継がれていくはずです。

最後になりますが、僕はこの先も英語を勉強していきます。フランス語の勉強も続けていくつもりです。しかし、それだけではなく、旅行や、読書の中などで、様々な言語に興味を持ち、触れていこうとも思っています。グローバル化イコール世界の均一化ではなく、世界の凸凹も含めてグローバル化だとしてとらえ、それを進めていくことができれば、世界の視野はもっと広がっていくのではないのでしょうか。